

【 第32回オリンピック(東京2020) 】

2021年7月24日～8月8日 日本・東京

試合結果報告 7月24日 (土)

JAPAN	vs	デンマーク
14	1st	25
16	2nd	22
	ex	
	ex	
30	TOTAL	47

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
10	杉岡 尚樹					0
12	岩下 祐太					0
13	笠原 謙哉	2	2			4
15	部井久アダム勇樹	2	3			5
18	成田 幸平					0
19	徳田 新之介	1				1
20	渡部 仁		3			3
21	土井レミイ杏利		1			1
22	坂井 幹					0
25	元木 博紀	4	4			8
31	吉野 樹	2	2			4
38	水町 孝太郎	2	1			3
41	徳田 廉之介					0
43	吉田 守一	1				1
TOTAL		14	16	0	0	30

戦況

16年リオデジャネイロ五輪金、21年世界選手権金のデンマークと対戦。日本にとっては、88年ソウル大会以来、33年ぶりのオリンピックの舞台。会場は国立代々木競技場。日本は、攻撃はプレーメーカーに部井久、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がウイング、ピボットに笠原の布陣、守備はGKに岩下、笠原と部井久をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-0 DF」で臨む。攻守で交代する選手を無くして相手の特徴である素早い速攻に備える。

試合開始から日本代表は硬さの見えるプレーが多く、なかなか得点を奪えない状況が続く。チャンスを創出するも、世界No.1GKの呼び声高い、Landin (THW Kiel)にシュートを阻止される展開が続く。0-5となったところで、タイムアウトを請求。落ち着きを取り戻すことを目指す。

岩下の好セーブも見られ、試合開始6分、部井久のミドルで初得点。しかし、Gidse (GOG)のブレイクスルーや速攻、M.Hansen (Paris Saint-Germain)などで、さらに点差を広げられてしまう。日本はCBに水町、RBに徳田新を投入するなど悪い流れを断ち切ろうとするも、なかなかリズムを取り戻せない。

15分、5-15となったところで、日本は7人攻撃を仕掛ける。これが奏功し、攻撃では徐々に落ち着きを取り戻すものの、得点後のバックチェックが機能せずに、デンマークのクイックスタートで失点、得点差を縮めることができないまま14-25で前半終了。

ハーフタイムでは、主に攻守の切り替え、バックチェックについて修正ポイントを確認。

後半開始早々に笠原のポストで得点。DFではGKに坂井を投入。笠原のポスト、元木のサイドなどで、前半とは違う流れを作る。さらに7人攻撃から前半同様チャンスは創出するも、後半から出場のデンマークGK Møller (SG Flensburg)の好セーブに合い、点差を縮めることができない。また、DFでもデンマークの体軀を生かしたプレーに対応できず失点を重ねていく。

試合はそのまま30-47で終了。

世界王者デンマークに対して、30得点を挙げたことは収穫の一つだが、47失点と失点の多さが課題。また、7人攻撃の精度を高め、エンブティーゴール(この日8失点)を少なくすると同時に、組織的なバックチェックが修正点。

次戦のスウェーデン戦に向けて、選手のコンディションに注意しつつ、リカバリーにも時間を割いて良い準備を進めたい。

報告記入者 :

舎利弗 学